

高遠中学校同窓会 ～「理事会」開催～

同窓会会長 矢澤 淳

保護者の皆様、地域の皆様には日頃よりご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。学校だよりにて、高遠中学校同窓会についてのお知らせとお願いをさせていただきます。

高遠中学校同窓会は、昭和43年3月の設立総会を経て同年6月の役員会をもって発足いたしました。本年で54年目を迎えます。これまで周年記念事業への協力や会員名簿の作成、部活動が全国大会に出場した際には運動部基金を立ち上げて寄付を行ってまいりました。近年は中学3年生の卒業に合わせて同窓会入会式を執り行っています。

この度、同窓会役員交代並びに会則改正を行いましたので、同窓会会員（昭和22年開校の高遠中、長藤中、三義中、藤澤中、河南中並びに統合高遠中卒業生）が多くお住まいになっている高遠町の皆様にお知らせいたします。

去る8月1日、新役員による第1回理事会を開催いたしました。会則の改正の確認、周年記念事業の方向性について話し合いました。来年3月の同窓会入会式には役員が出席し、卒業と同窓会への入会をお祝いするとともに、母校の発展に力を合わせていくことを確認してまいりたいと思います。今後も同窓会へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

高遠中学校同窓会 役員

(敬称等略)

会長	矢澤 淳	的場
副会長	伊藤 雅美	下山田
副会長	北原 学人	中条
理事	高遠 赤羽 敏	霜町
理事	長藤 伊藤 邦弘	中条
理事	三義 原 一穂	原
理事	藤沢 守屋 臣介	片倉
理事	河南 田中 均	上山田
監事	伊藤 由香理	(R3PTA 会長)
監事	浦野 真吾	(R4PTA 会長)
事務局	山崎 茂則	(校長)
	横田 良子	(事務)
	田中 清治	(教頭)

*同窓会事務局を高遠中学校に置く。

(会則の主な改正点)

- 役員の人数を減らしました。
- 総会を開催することが難しいため、理事会(役員)により事業が進められるよう機能性を重視しました。
- *高遠中学校のホームページに同窓会のページを開設し、会則など掲載をお願いしていく予定です。

3年生 修学旅行
「奈良・京都の旅」(7/27-29)



【法隆寺】



【薬師寺東塔】



【薬師寺大講堂】



【奈良国立博物館】



【東大寺大仏殿】



【東大寺大仏殿】



【南禅寺 山門】



【鹿苑寺 金閣】



【慈照寺 銀閣】



【嵯峨野 竹林】



【ホテル「日昇別荘」 幔幕（玄関幕）】



【伏見稲荷大社】



【龍安寺 石庭】



【三十三間堂】

2学期始業式 校長講話

おはようございます。およそ1か月の夏休み、どのような生活を送ったでしょうか。3年生は充実した修学旅行を行うことができました。吹奏楽部は、コンクールで銀賞を受賞しました。今日から2学期です。学期の始まりにあたり、大事にしてほしいことをお話します。

これは、高遠中学校の実践目標「挨拶愛語 清掃不言 花作相見 歌声響合」です。共通することは、他者との関わりについて示していることです。他者とは、人だけにとどまりません。ものであったり自然であったり、自分以外のものとの関わりについての実践の糸口を示していると考えてください。

他者との関わりについて考えます。これは、おとしの2学期始業式でお話した3つのCです。1つ目はコンパッション。共感とか思いやりという意味。自分の感情の部分のこと。2つ目は、コミュニケーション。話し合い。手段、方法のこと。3つ目は、コミュニティ。共同体という意味です。集団の在り方を示しています。この3つに共通することは、自分以外の人とどのようにかかわっていくかということです。

Compassion
(コンパッション) … 「共感 思いやり」
Communication
(コミュニケーション) … 「話し合い」
Community
(コミュニティ) … 「共同体」

論語には、このような言葉が残されています。読みます。・・・「仁」も「恕」も思いやりの心を示しています。その具体は、自分がしてほしいことは他人にしてはいけないということを述べています。

仲弓、仁を問う。子曰く、門を出でては大賢を見るが如く、民を使うには大祭を承くるが如くす。己所不欲 勿施於人・・・」(顔淵第十二)
子貢、問うて曰く、一言にして以て終身之を行うべきもの有るか。子曰く、其れ恕か。己の欲せざる所は人に施すこと勿かれ。(衛霊公第十五)

仏教の中でも「無財の七施」という教えがあります。一つ目、「眼施(げんせ)」といます。

これは優しい眼差しで人に接するということです。二

「無財の七施」(おぎいのしちせ)
「眼施(げんせ)」
「和顔悦色施(わげんえつしきせ)」
「言辞施(ごんじせ)」
「身施(しんせ)」
「心施(しんせ)」
「床座施(しょうざせ)」
「房舎施(ぼうじゃせ)」

つ目、「和顔悦色施(わげんえつしきせ)」といます。これは、なごやかで穏やかな笑顔を見せましょうということ。三つ目、「言辞施(ごんじせ)」といます。これは、相手を思いやる優しい言葉をかけましょうということ。四つ目は、「身施(しんせ)」といます。これは、他の人のため、世の中の役に立つために自分の体を使うということ。五つ目は、「心施(しんせ)」といます。同じ「しんせ」と言いますが、こちらは心で行うこと。「他の人のために、心をくばる」ということ。六つ目は、「床座施(しょうざせ)」といます。これは、座っているところをゆずるということ。七つ目、「房舎施(ぼうじゃせ)」といます。これは、日頃から、お客さんをお迎えできるように、家の整理整頓や掃除に心がけるということ。また、雨の時に傘を持っていない人に傘を差し掛けるという思いやりの行いも示しています。

ここまで、他者との関わりについて話をしてきました。話はすこし変わりますが、3年生の修学旅行は奈良・京都でした。3年生には、「まほろば」「みやび」という言葉に加えて、「いきさ」という視点で奈良や京都に学んでほしいという話をしました。現代の日本、戦後77年たちましたが、まだまだ戦争の傷跡が残っています。先日、高遠町歴史博物館の「出征兵士と家族の肖像展」を見てきました。写真と添えられた言葉の重さを感じてきました。近隣諸国との関係について、さらにヨーロッパでも今なお解決していない問題を抱えています。「think globally act locally」と言います。私たちができることは、世界のいさかいを思いつつ、今、身近にあるいじめや差別をなくすことです。今日、私が話した内容を振り返り、生かしてください。以上で始業式の話とします。